

## 夢 想 神 伝 流 の 基 礎

### 坐 り 方

- ①居合の表は左であるから、神座を左手にして坐る。
- ②提刀姿勢から足を引かずに袴の裾捌きをして左右の膝を着く。(山蔦重吉範士九段)  
\* (無涯塾では左足を引いて着座する)
- ③両膝の開きは一拳。
- ④目は前方 3.5m を遠山の目付。(山蔦範士九段は 3.0m)
- ⑤四方に気配りし丹田に気を込めて坐る。

### 刀の握り方

- ①人差し指が縁金に掛からぬようにする。
- ②両手首を内に繰り込み、親指は中指の内側を軽く押し、薬指・小指は少し締めて握る。
- ③左右の手の握り間隔は 3.6 c m 位とする。(直伝は 3.0 c m より短く握る)

### 鯉口の切り方

- ①内切り、外切り、かくし切り(控え切り)の三法あるが、夢想神伝流は左手親指にて鰐を押し(外切り)鯉口を切る。(直伝は本来内切りが主流。現在は外切りが多い)

### 着眼・目付

- ①正坐、立膝共に遠山の目付。3 m 先。(山蔦重吉範士九段)  
\* (無涯塾では 3.5m 先とする)
- ②全体を半眼で観る。

### 残 心 — \*名人に残心無し\* —

- ①油断の無い心。
- ②敵が再び攻撃して来るなら、直ちにこれを制し得る油断の無い心を残す。
- ③姿勢や態度を崩さない心構え。

## 抜 き 付

- ①敵をしっかり見定める。
  - ②抜き付けは、居合の生命である。
  - ③刀が鞘を離れた一瞬に敵の顔面・胸部・右拳に抜く。
  - ④刃を上向きで抜き、切っ先9cm鞘に残った処で徐々に刀を横水平に向け右足と同時に抜きつける。
- \*（無涯塾では刀身の中程から刃を徐々に傾け、鞘に3寸残った処で右足と同時に抜き付）
- ⑤最初は《序》、次第に《破》、そして《急》で、一気に抜く。

## 振りかぶり

- ①抜きつけた刀を左肩上10cm位外側を剣先で後を突き刺すようにして頭上に振りかぶりつつ左手をかけ諸手上段となる。この時刀先は45度位上向きとする。

## 切下し・打下し・切付け

- ①抜き付けの一撃を与えた敵の真っ向より水月辺りまで切り下し仕留める。
- ②刀を大きく円を描く様切り下す。
- ③腰を前に押し出す気持ちで下腹部に力を入れ、上体を真っ直ぐ伸ばす。
- ④刀先は、床上15～20cmまで切り下す。
- ⑤鏢は膝頭より前に出ない事。
- ⑥膝と柄は水平に置く事。

## 血 振

- ①<sup>ちぶるい</sup>血振は残心を以って行なう。
- ②左拳の高さは右肩の高さで、刀先を右外開きで斜め後を突くように。
- ③右肘を頭の方へ折り、右拳をこめかみ近くへもってゆく。
- ④立ち上がりながら右肘が体と45度になるように血振るい。
- ⑤刀を前へ回しながら伸ばす時、右手人差指と親指が右頭の髪に触れる位近くへ。
- ⑥無涯塾では、左手親指と<sup>たなごころ</sup>掌の帯・鞘への力の配分を重視。（左右の手の力のバランス）

## 納 刀

- ①手先で器用に納めず、常に腹で納める心持が大切。
- ②鏢元近くから右肘を右前方に伸ばし、刀を横一文字に左手を引きながら納刀。
- ③左手小指は帯に沿って引く。
- ④3分の2位まで刀を平らにして納め、残りは刃を徐々に上向きにして納める。
- ⑤しっかりと残心を示して技を締めくくる。

## 間 合

- ①間合いを単に敵との距離（空間的）と時間的間合い（動作間のリズム）、又、精神的間合（敵との心と心の戦い）がある。
- ②敵近ければ我退き、敵遠ければ我進み、所謂敵を攻撃し得る間合いを自ら作る。
- ③技の動きの移りに、或いは速く、或いは、遅く、緩急のリズムのある動きをする。
- ④敵の心の動きに対応した心の間合も考慮する。

## 基本 姿勢

- ①半身になる技でも、後足の爪先が横を向いたり（撞木足・鉤足）後向きになる足踏みは無い。
- ②後足爪先は常に前足と同一方向を踏むべきである。（自分の臍が敵に真っ直ぐ向き、腰が入り刃筋が正しくなる）
- ③立った姿勢の斬撃は前後の足幅は剣道よりやや広い。
- ④初発刀の抜き付けの時右足膝下は直角。後足大腿部は床面に直角となる。＝折り敷いた姿勢の場合前後の爪先間隔は二歩幅＝（立ち技で深く切り下す時は、この坐って踏んだ両足を立ち上がって伸ばした姿勢。但し、前足爪先をやや前に出す。80度位）
- ⑤両脚の股で辜丸を挟む気持ちで両膝を内側に絞ると腰が締まる。
- ⑥足を後に引いた場合二足幅位横の間隔を取り、約10度角度で足を後方へ引く。

## 呼 吸

- ①禪に於いて「坐る」事は呼吸の調節であると言われている。
  - ②一つの業を終え次の業に移る間三呼吸。二呼吸（丹田息）し、三度目の息を吸い終わる頃に刀を抜き始め、業が終るまで息を吐かない。残心ある納刀が終ると同時に軽く吐く。
  - ③呼吸を上手に整える事は、心身の調和、安定を得、生き生きした演武の基である。
- \*大森曹玄師は「口を開いて大気と下腹とが直結する様なつもりで——喉や胸を使わず

下腹部を収縮した力で胸底を空っぽにするつもりで綿々として長く吐いて吐きつくす。凡そ30秒位かかって腹中の邪気や濁気を吐き出すので有るが、こうするとたった一息で、今までの環境と途端に絶縁したような心境になるから不思議である」

こうして吐き尽したら下腹の緊張を緩めると外部の大気圧によって鼻から自然に空気が入ってくるから、その入るに随ってきよ胸腹に満ちるまで吸い込む。

吸い終わったらちょっと息を閉じ、腰を張り出すようにして吸った息を下腹に救い上げる様な気持ちで軽く押し込む。このとき、気張ったり、力む事は禁物、肛門を締めるのは大切である。

こういう呼吸を、四～五回ないしは10回繰り返すと、坐る前の雰囲気から完全に離脱出来る上に、心身の調和がとれ入定を助ける。

深呼吸が終わったら口を閉じ、鼻から空気を出入りさせ乍、腹筋を用い腹圧を利用し丹田息をする。

居合演武に於いて、特に正坐した場合、この丹田息をするとよい。

## 夢想神伝流業（技）の要点

### 初伝・大森流（無涯塾資料28）と併せ見る

#### 1 本目〔初発刀〕

- ①自分と敵との間合は1.5mと想定。
- ②刀の刃を上向きに抜き出し、刀が鞘に9cm残る処迄抜いたら刃を横外水平に向け右足を一步前へ踏み出すと同時に抜刀する。（水平にしたら急激に抜きつける）
- ③敵の胸部又は、こめかみに抜きつける。（帯に小指をつけて十分に鞘引きをする）
- ④抜き付けの右拳の高さは肩の高さ。（切っ先は水平よりやや下がる）
- ⑤膝を着いた左足大腿部は床面に垂直となる。（前後左右に強い体勢）
- ⑥抜き付けた刀を左肩やや上10cm外側を剣先で突くように上段にかぶる。
- ⑦左膝を右踵まで進める。
- ⑧左手を頭上に上げる途中、鯉口を鳩尾まで持って来る。
- ⑨振り下ろす時頭上で刀を止めず一拍子の打ちで切る。
- ⑩右足を一步前に踏みつけ切り下ろす。（床面15cm位まで）
- ⑪切下した右手の五指が上向きになる様右に捻る。（剣先で敵を突く様な攻めを入れて）
- ⑫右手肘を伸ばし、右肩の高さで、切っ先は外開きで斜め後の敵を突く気持ち。
- ⑬右手親指、人差指の先が僅かに右頭髮に触れる程度に近く。
- ⑭立ち上がりながら、右肘が体と45度となる様肘を伸ばす。
- ⑮血振した時の剣先は、前に出ている足に平行になる様に。
- ⑯三分の二位刃を平にして納め、残り三分の一になった頃から徐々に刃を上向きにし乍ら右膝を静かに突く。

#### 2 本目「左 刀」

- ①敵は左側約1.5m離れ、自分と同方向を向いて正坐していると想定。
- ②左敵の動きを見定め、右膝を左膝に寄せ右膝頭を軸に90度左回をし、並坐している左側の敵に向う。（この時刀は三分の二位迄抜いている——無涯塾では9cm鞘に残る）
- ③敵を威圧する位でゆっくりと。
- ④回り終わるや左足を出して、敵のこめかみに抜きつける。  
《以下一本目に順ずる》

#### 3 本目「右 刀」

- ①敵との距離1, 2本目に同じと想定。
- ②2本目と同じ要領。左膝頭を軸に90度に右回り回転。  
《以下1・2本目に同じ》

#### 4 本目「當り刀」

- ①敵は自分の背に向って坐っている。距離は1・2・3本目に同じ。(間合が近い)
- ②刀を抜きながら右膝頭を軸に180度回転。(右脛が左足と平行に)
- ③後の敵に向き直るや、左足を一步出してこめかみを切る。  
《以下1.2. 3本目に同じ》

#### 5 本目「陰陽進退」……八重垣

- ①初発刀と同じ要領で、第一撃が不十分の為、逃げる敵を左足を出して切る。
- ②中腰で敵の正面を、顔面から丹田近くまで切り下す。  
\* (無涯塾では顔面上部から顎まで切る)
- ③直伝流の納刀。(刃はやや斜め右下を向き、刀先は正面真っ直ぐ。水走り程度前下がり)
- ④刀を完全に納めないで次の敵に備える。
- ⑤第二の敵が正面から切り込んでくるのを左足を充分後へ引き中腰で敵の腰を切り払う。  
《以下初発刀に同じ》

#### 6 本目「流 当」……受流し

- ①敵との距離は1～4本目に同じ。
- ②敵の気配を感じるや左上方の敵に着眼。
- ③敵の刀が頭上に振り下ろされるに対し、左足を前に踏み出す。
- ④右手で柄を横上方から握り、上体を敵に向け刀を右肩前上に突き出す。  
\* (無涯塾では鰐元三分の一〈防と制〉の箇所を剣先を下げず鎗で受ける。この時、肘を突っ張らずやや弛みを持たせる。刃で受けたらなやすこと)
- ⑤敵刀を外す動作は、右肘を右脇、右拳右肩先に持ってきて、刀は首後で水平に担ぐ。
- ⑥前のめりの敵に左足先を向け、諸手で敵の腰を鞘ごと切る。この時両膝は前横80度に曲げ腰を落とす。両肘を充分伸ばし手の内を効かし、45度下向きに切る。
- ⑦右足のリズムは、○-○-○ではなく、○-○○と流動的に。
- ⑧切り付けた姿勢のまま、両足先を僅かに右に向け、身体を正面に向き直す。

#### 7 本目「順 刀」……介錯

- ①距離は切腹者の後方二歩(5～60cm)。
- ②左膝を軸に刃を上にして90度右へ。
- ③右足を左足に引き付け直立。刀は半担ぎ。右拳は乳の高さ。
- ④右足を一步踏み出しながら上段に取る。
- ⑤同時に両肘を伸ばし、首の後ろから首の骨を斬る様に切る。(スパッと首を落さない)
- ⑥喉の残皮を引き切り。  
\* (無涯塾では引き切りをしない。手の内で残皮を切る…口伝)

## 8 本目「逆 刀」……付込・追斬

①敵の気配を感じ、左膝頭半足長踏み出し刀を20cm位抜き出し敵を伺う。

\*（無涯塾では柄頭を下げ、右膝前に鏢を出し敵を誘う）

②刃を上向きに抜き出し、頭と左肩を受け流しで<sup>かば</sup>庇う。（右拳は右頭部15cm右）

③敵が切り込んできたなら、右足を少し左足に引き付けて、直ちに刀を反転、上段から敵の正面より顎まで切り下す。（切り下す瞬間左手を柄にかける）

④受け流してから第一撃目までは極めて速く。

⑤左肩側より再び上段に振りかぶり、右足を大きく踏み出し（左、右の追い足）

\*（無涯塾では二撃目の振りかぶりを、其の儘上段に振り上げる。左足を前に出した時に刀は頭上。右足で切下す）

⑥右足で敵の正面から臍の位置位まで切る。

⑦左諸手上段となる。十分な残心。（正眼から右足を引き太刀を上げ、左前拳は額より少し高く、右拳は頭上にとる。上げた太刀は正中線を外さず、約45度後方に傾ける）

⑧左手肘を左膝に乗せ、人差し指第一関節辺りに刀の物打ちの峰を添えとどめを刺す。

## 9 本目「勢中刀」……月影

①中腰で立ち上がり乍、刃を斜め右上方に向く様に、敵の右肘に抜きつける。

\*（無涯塾では敵の両腕を切る、所謂「月影」も可とする）

②左肩から受け流しで素早く振りかぶり諸手上段となり真っ向に切り下す。

③立ったまま血振るいし、折り敷いて以下初発刀に同じ。

## 10 本目「虎乱刀」……追風

①両手を柄にかけ左足を半歩ほど前へ踏み出す。

②左足を前に出す動作は抜刀を容易にする為である。腰をやや右に捻り、左足爪先を少し右向けの気持ちで前へ出す。

\*（無涯塾では、腰を落し、右爪先の前へ左足踵を運び、左、右とこれを繰り返す）

③右足を大きく踏み出し、腰を左に捻り気味に抜刀する。

\*（無涯塾では、敵の胸部に切りつける。状況によっては顔面、首でもよい）

④左足を一步踏み出し乍、左肩側から受け流しに振りかぶり、右足を大きく踏み出して敵の正面を切り下す。

⑤右足を半歩引いて納刀。

⑥状況によっては、敵が後ろ向きに逃げるのを背後から切り下す想定も有る。

⑦第一撃の効果なく、敵が後退する様な時、抜き付けた剣先を付けたまま1～2歩攻め込んで、真っ向に斬る想定も有る。

### 1 1 本目「抜 打」

- ①両足の爪先を立て腰を上げると同時に、刃を上にして右上斜め前に抜き出す。
- ②刀先を左肘上部を突くように振りかぶり、素早く、諸手上段となり両膝をくっける。
- ③上段より敵の正面を切り下す。と同時に両膝をトンと床に落す。

### 1 2 本目「陰陽進退替え業」

- ①五本目陰陽進退に同じであるが、二人目の敵が右脛に切りつけてくる所を、左の引き手を充分利かせ、刀先を下げたまま右足外側に刀を回し、刀物打ち表峰で右脛を囲う様に、敵刀を払いのける様に受け止める。

\*（無涯塾では刀の物打ち辺りの鎧で敵刀を叩き落すように）

## 中伝・長谷英信流

**無涯塾資料 2 7**と併せ見る

### 立膝の坐り方

- ①刀の鐔に左親指をかけ、上体を前に曲げながら両膝を左右に開き
- ②右手で袴の左裾を内側から外へ払う
- ③同時に左足を一步引いて左膝を床に着け
- ④足元を延ばし、左足を胡坐にかき左足踵の上に肛門が載る様に坐る。

\*（無涯塾では左臀部を左足踵の上に乗せる）

- ⑤右足甲の外側を床に付け内側は少し浮かせる。
- ⑥両手は五指を上に向け軽く握り、両股の上に自然におく。

\*（無涯塾も今後この方法を採用）

- ⑦両肘は張らず、軽く両脇に付ける。
- ⑧座る時は左足が先、立つ時は右足が先。

### 中伝の業の特徴

- ①敵との間合が近いので、一步後退して斬間を造る。
- ②血振るいは、横血振るい。
- ③納刀は横一文字で、刀中央峰に鯉口をあて納刀。

## 1 本目「横 雲」

- ①低い中腰で敵のこめかみに抜きつける。(業の基本としては左足を引いて。)
- ②状況によっては、右足を一步踏み出して抜きつける事も有る。
- ③左膝を右踵に進めると同時に刀を振りかぶり、敵の正面の切り下す。(床上15cm)
- ④納刀は刀の中程から残心を示し乍、右足の踵の踵に左足踵を引き寄せる。(以下各業これに順ずる)
- ⑤納め終わった時の両踵を15cm程開き臀部をその上に乗せる。

## 2 本目「虎一足」

- ①敵との距離(相手の膝頭と自分の膝頭間)を80cmと想定。
- ②以下、初伝「陰陽進退替え業」第二敵の対応に順ずる。
- ③敵が右足に切り込んでくるのを急速に抜刀し、敵刀を腰を左に少し捻って引きてを利かせ、鎬で受ける。(刀先が鯉口9cmよりはじき出される様に強く素早く)

## 3 本目「稲 妻」

- ①初伝「勢中刀」に似ている。
- ②右膝を立て中腰で腰を捻りながら、敵の小手に抜きつける。
- ③右膝を立てて折敷、左膝を右膝に引き寄せ乍頭上に振りかぶり、右足を直角に踏み出し上段より敵正面に斬り下す。

## 4 本目「浮 雲」

- ①右脇の敵が自分の刀を取ろうとするので、鯉口・錨に左手をかけ、(右手は右腰)左足を一步横に開き立ち上がる。
  - ②同時に刀を下側より左上に回す様に左に開いて敵の手を外す。
  - ③左足を半円を描く様にして右足の右外側に持ってきて爪立てる。
- \* (無涯塾ではこの時、左爪先は敵の方向を向いている事としている)
- ④左<sup>ふくらばぎ</sup>脛脛の上にクロスさせた右脛を乗せる。(鷲足)
  - ⑤右横に刀を抜き出し、腰を大きく捻って上体を左向きにしつつ、敵の胸部と右腕に抜き付ける。この時左足を返す。(敵が正体し柄を取らんとした場合の想定では敵肩口)
  - ⑥上項の左足を返すとは左足の土踏まずを上向きにして、甲を床に付ける事である。
  - ⑦抜き付けた時、右拳は右腰のやや下。刃は斜め下向き。
  - ⑧切っ先の鞘からの離れ際は、扇子を急激に「ぱっ」と素早く開くように。
  - ⑨抜き付けた刀は動かさず、物打ち辺りの峰に左手を添えて(親指と中指の基部で挟む)
  - ⑩右足を大きく後ろに引きながら左手を真っ直ぐ伸ばし、上体を右に捻る様に引き倒す。  
(剣先を下向きに、刀を右にえぐる様に。終わった時の剣先は左足先25~30cm先)
  - ⑪刀を右肩斜め上に来るように返す。(上段にかぶる道程)

⑫刀を返し終わる瞬間、右膝頭を左足踵の後方へ付け

⑬右足先を左に90度回す。と同時に上段に執る。

\*（無涯塾では、返した刀を何時までも其の儘にしない…⑬項の通り）

⑭左足を更に90度右に回し敵の左袖をトンと踏みつける。

\*（無涯塾では、敵は仰向けに倒れていると想定）

⑮自分の左膝を避けるように敵の胴を切る。

## 5 本目「山 嵐」

①左膝を軸に敵に向かい右回り。

②敵が鯉口を切ろうとするので刃部を下向きに鞘ごと前に引き出し、右足で敵の左腿上を踏みつけ、同時に敵の右手甲を強打。

③柄を握っている右拳が、自分の鼻先を通る様に刀を右へ回し、鐔を右腰辺りに付ける。

④腰を大きく左に捻り、鞘離れした刀は敵の胸と右腕を押えるように抜き付ける。

⑤引き手を利かせ、左膝を軸に

\*以下 **無涯塾資料 27** 参照